



母を介護して

幼い頃、母は私のたわいない話をよく聞いてくれ、笑いながら言った。「お前を産んで良かった。お母さんは幸せだ」。私がこつと笑うと、「お前の笑顔を」と見ると仕事



那賀川町 住友 宣子さん

の疲れも吹き飛ばよ」。母は私を笑顔良しの子どもにしてくれた。母は83歳の頃、認知症になった。私は仕事を辞め、毎日母の話を聞いた。初めは私の幼い頃の話。次は母の子ども時代の話。同じことを何百回も聞いたが、不思議なことと思病は一度もなく、楽しい思い出ばかりだった。そして、母もまた親に愛されて育ったことがよくわかった。

元で母が私にかけてくれた優しい言葉を語りかけながら世話をした。その5年後に母は亡くなった。優しく安らかな顔に私は救われた。その後、母の供養にと巡礼ツアーに参加した。先達の方から仏教の教えを聞く中で「和顔愛語」という言葉を知った。人に笑顔をみせたり愛のこもった優しい言葉をかけることは、立派なお布施であるという意味だ。期せずして母が私に、私が母にした行為も同じだと分かった。少しは恩返しできたとうれしかった。

母の娘である幸せと、言葉の持つ力の大きさを痛感した。新しい年を迎えた。元気に今を生かされていることに感謝し「和顔愛語」をモットーに、これからは積極的に社会参加して、いろいろな人と交流していこうと思っている。

次は、富岡町の三間知樹さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭
短歌大会 選

市長賞

矢野 道子
交差させ子供太鼓の撥さばき
初冬の空に光を散らす

議長賞

鹿島壽美子
一方通行になりがちなわが耳
に「聞き上手よ」と言い聞かせいつ

教育長賞

五島 秀子
るり色に水無月いろどる花菖蒲
蒲迷いこみたる光琳の界

互選賞

木内 照代
掃き寄せる人はもう居ず里の家
に金木犀の花殻かわく

互選賞

佐坂 恵子
目つむりておれば聞こゆる遠
花火病み臥す胸につぎつき開く

互選賞

西崎まき子
いとしさのいや増す粒は手に熱
し豪雨に耐へたる新米なれば

互選賞

吉形 和恵
晩酌に垂らすすだちの一滴は
香りいっぱい魔法のしずく

中学生短歌のポスト入選歌

入選

西村 美玲
部活動もうすぐお別れ浄瑠璃
よ今まででありがとお鶴とお弓

入選 岡本 悠斗
ぼくたちの故郷かざる阿波踊り
神の二拍子夜の街を舞う

入選 米田歩美花
おばあちゃんお元気ですかと
祖母に宛てスイカを描いた残暑見舞よ

入選 折野 恭介
夜の道照らしてくれるホタル
達僕らをどこへ連れて行くのか

入選 日下詠美子
くもり空何だかはれない私の
心雨がやんだら素直になろう

入選 岡田 恭平
運動会全力投球やりきったフ
ォークダンスで手が震えたよ

入選 内藤 優香
庭の隅秋が来たよとおみなえ
しふわりと笑う君に似た花

入選 坂東 茉弥
赤トンボ犬の頭にとまってる
まるでおしゃれなりポンのようだ

俳句

阿南市俳句
連合会 選

河野 柳史
祖谷男橋女橋も紅葉濃かりけり

加藤 和子
風呂吹や母の口紅ついに見えず

陶久 晴義
時雨るるや怒なくせば聖人か

工藤千鶴子
どんぐりの小枝をかざる接骨院

竹谷 由美
わび助の地をかんでる鉢の底

神野千鶴子
左官屋の鋸角に秋日差す

吉崎 晶子
小春日や港で開く島の市

東條 当子
芒穂の峠越れば昼の月

宇川 延子
留守の戸を開ける隣家や初時雨

川柳

阿南川柳会
高木旬笑 選

橋本 征介
聞きたいなそんな言葉は耳元で

岡本 福笑
三度まで許してくれる仏顔

西田 修身
どうするの皆んなあなだが蒔いた種

佐藤つたえ
待つてると笑顔に会える通学路

臣守 愛香
口八丁よりも無口な頼り甲斐